

# 口腔内写真撮影のサポート

— LED照明付ミラー/FFフォト活用の提案 —

歯科治療の中で利用する画像診断に

- I. デンタルX線写真
- II. パノラマ、セファロX線写真
- III. CT画像
- IV. 口腔内写真

がある。診査・診断において、直接見ることができない部位の状態を把握しなければならない歯科治療では、デンタルX線写真とパノラマX線写真は必須であり、インプラントを考えれば3次元の画像が得られるCTも可能であるならば導入したい。これらX線画像に負けず劣らず大変多くの情報を与えてくれるのが『口腔内写真』であるが、なぜ constants に撮影する歯科医院が少ないのであろうか。

- 口腔内写真がなくても診療ができる
- 手間がかかる割に保険点数が低い
- 他の画像と比較して撮影の難易度が高い。難易度が高いにもかかわらず、研修する機会が少ない(ほとんどない)

の3つの理由を挙げることができる。しかしながら12時の位置から見る図と背板をおこした状態で見た同じ部位は全く異なり、様々な内容・情報が詰まっている精度の高い口腔内写真<図1>は、直視した場合よりもはるかに有用なこともある。

また一人の患者の経過を写真を通じて追うことで、自分の治療精度を評価・反省することができるため、歯科医療技術のレベルアップのためには必要不可欠なツールであると言える。



<図1>規格性があり、精度の高い口腔内写真は多くの情報を提供してくれる。(撮影：末竹歯科医院)

このような理由で、多くの先生方が高価なカメラを購入して撮影にトライされていると思うが、毎日写真を撮り記録しているかとなると、私の知る限りその割合は激減する。患者の協力を得ながらスムーズに、しかも規格性のある画像を得ることは思いのほか難しい。その中でもミラーを使用して撮影することはさらに難易度が上がる。

## ミラーを使用する場合とそうでない場合

- ①ミラーの曇りをコントロールしなければならない(曇らないようにあらかじめ処置をしておかなければならない)



<図2>補助光をミラーにあてることはそれほど簡単ではない。無影灯を持って行きたい方向には、常に撮影者とカメラがある。

②狙った部位に焦点を合わせるために、患部ではなくミラーに補助光をあてなければならない<図2>

③ミラーに映る虚像のみを撮影するために、ミラーを実像から離さなければならない<図3>

の3点が大きな違いであるが、その内1. 2. について解決できる優れたものを使用してみる機会があったので紹介させていただく。



<図3>実像が写真に写り込まないようにするためには、被写体からミラーをできるだけ離す必要がある。

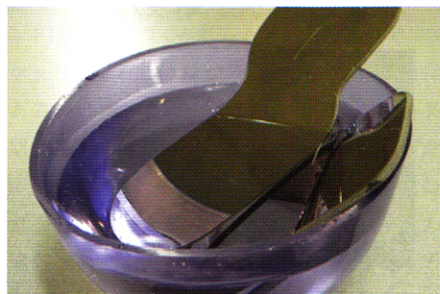


<図4>曇り止めを塗布してもほとんど満足する効果は得られない。

何も処理せずにミラーを口腔内に入れば、曇ってしまうことは周知の事実である。これを防ぐ方法として<図4>の曇り止めを塗布してみたり、一人のアシスタントが撮影の間エアーを吹き付けておくというものがある。しかしながらどのような曇り止め薬剤を使用してみても満足な効果は得られず、エアーに関しても肝心の写真にスリーウェイシリンジが写り込まないようにしながら、確実にエアーをあてることはそれほど簡単で



<図5>確実にエアーをあてるためには研鑽が必要。(撮影：末竹歯科医院)



<図6>現在「曇り防止」のために使用されている一般的な方法。

はない<図5>。

現在一番確実な方法として、<図6>のようにお湯にミラーを浸しておき、撮影時に取り出して使用する方法が推奨できるが、これとて以下の問題点がある。

- 適温 (50~60°) のお湯を素早く用意できる環境が必要
- 金属製のミラーを使用した場合、少し熱いお湯でもやけどをさせてしまう可能性がある。

さて、そこで紹介するのがFF-PHOTOである。付属のミラーを装着して使用するが<図7>、その差し込んだミラーの根元部分から空気が噴出してくるため、大きなミラーであっても全面に曇ることがない。またエアーのスイッチを入れると同時にLEDランプが点灯し、無影灯をつけなくても焦点を合わせるための十分な明るさを提供してく



<図7>LEDライトの光量は焦点を確認するためには十分なものであり、補助光を必要としない。

れる<図8>。

先に記した③については自己研鑽、あるいは研修会などに参加することでマスターをしていくしかないが、スムーズなミラー撮影を阻む『曇り』と『補助光』の問題を解決してくれるFF-PHOTOはまさに“優れたもの”であり、口腔内写真撮影についてシステム化されていない歯科医院では手放せないものになると思われる。さらに口腔内写真撮影をされていない先生にはFF-PHOTOを使用してはじめての一步を踏み出していいただきたいと考える。

## 著者・講師紹介



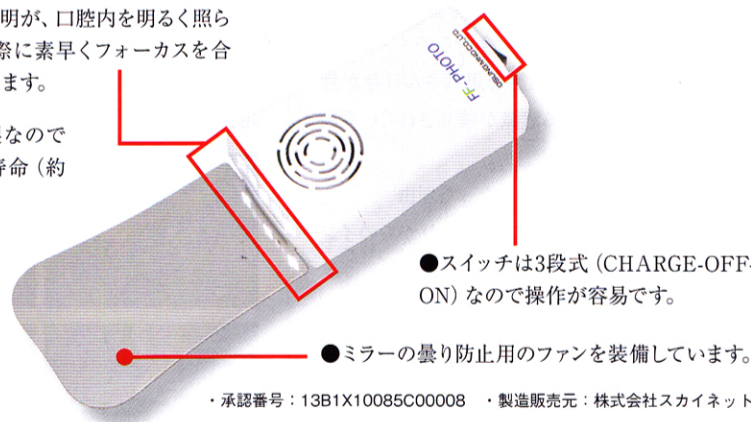
末竹 和彦 先生  
DR. Kazuhiko Suetake

鹿児島大学歯学部 卒業  
医療法人社団 末竹歯科医院 理事長  
ジンマードンタル公認インストラクター

## FF フォト

- 製品番号 / C00029
- 株式会社白鷗にて発売中

- 前面の3つの照明が、口腔内を明るく照らすため、撮影の際に素早くフォーカスを合わせることができます。
- 照明はLED製なので熱を帯びず、長寿命(約4万時間)です。



- スイッチは3段式 (CHARGE-OFF-ON) なので操作が容易です。
- ミラーの曇り防止用のファンを装備しています。

・承認番号：13B1X10085C00008 ・製造販売元：株式会社スカイネット

日本歯科医師会生涯研修事業認定研修会



# 1DAY口腔内撮影セミナー

## インプラント治療に必要な口腔内写真とデンタルX線写真

「きれいな口腔内写真を得るのは非常に難しい」「自分の行った歯科治療を客観的に技術評価する術前・術後の画像をできるだけ同一の条件で得る必要があることもわかっているが、実際はできない」。日常このように感じていらっしゃる先生が多いのではないのでしょうか。インプラント治療においてはこの必要性がさらに増しますし、これができれば医院についてのレベルをワンランクアップできたも同然です。今回口腔内写真撮影の技術向上をめざしたセミナーを企画しました。1日で下記の内容を習得していただきます。スタッフの皆さんとともにご参加ください。

### 研修内容

- ・使用する器材の選択
- ・口腔内写真撮影の基礎
- ・口腔内写真撮影実習
- ・セミナー受講者とともに写真の評価
- ・パワーポイントの基礎と見栄えの良い写真の貼り付け方



○フォトミラー「FF Photo」を使用します

□講師：

末竹 和彦 先生 鹿児島大学歯学部 卒業  
医療法人社団 末竹歯科医院 理事長  
ジンマードンタル公認インストラクター

7.4 Sun 9:00~17:00

□会場：株式会社白鷗 福岡営業所研修センター  
福岡市博多区下川端町3-1 リバレインオフィス11F

□定員：[3名1組] 6組 (定員となり次第、締め切らせていただきます。)

【お問い合わせ先】

株式会社白鷗 研修会事務局  
〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3-23  
TEL.03-3265-6385 FAX.03-3221-6304

【セミナー協賛】(株)ソニックテクノ